

古墳の埴輪祭祀の謎に迫る発見 家形埴輪5基が並ぶ

「石敷区画」

シリーズ 第2回

教育委員会生涯学習課
川尻 真

「石敷区画」は後円部埴輪頂南東側で確認された家形埴輪5基をその区画内に配列した祭祀遺構とみられる遺構です。長辺6・3m、短辺は約3m（南東の一边が後世



甲立古墳後円部「石敷区画」

に削られています）の範囲におもに15cm×30cm大の河原石を石列状に敷き並べ、長方形状の区画をつくっています。

家形埴輪はこの中央部分に5個体（1号～5号）が1列に配置され、各個体周囲には河原石を敷き詰めていました。それぞれの家形

甲立古墳の発掘調査で最も重要な発見と評価されているのが今回紹介する「石敷区画」と呼ぶ後円部で見つかった遺構です。後円部上の平坦面は、古墳築造当初の状態を良好に残っていたのでした。

埴輪の基底部は動いた痕跡はなく、古墳が造られた当初の位置を保った状態で出土しました。

家形埴輪は45～50cm間隔で区画の長軸方向に合わせこの中央に1列に交互に長辺、短辺が入れ替わるといった方向性で置かれていたのでした。北から1・2号がほぼ同規模の切妻造高床式建物、中央の3号が特殊な囲い状建物、南側の4・5号が小型の家形埴輪という並びの構成であることがわかりました。

後円部埴輪で家形埴輪が確認されることは、これまでの国内の調査例では部分的に確認された例はありましたがほぼ全体の状況を残す例としては初めてといえます。甲立古墳の「石敷区画」はこれまでわからなかった家形埴輪が後円部の上のように並べられていたか、そこから見えてくる古墳の埴輪祭祀の実像に迫る大発見なのです。

編集後記

先日、あじさい聖苑の管理者の方とお話する機会があった。その方によると、「あじさい聖苑は単なる火葬場ではなく、お別れをきちんと行う空間」と話された。そして、そのお別れの空間を「無言の表現」とも。とても共感できる言葉でした。人生終焉の場が、そういった方の手で運営されている事に安心と喜びを感じました。（原田）

安芸高田市児童・生徒自画像展 作品の表彰式の取材に行きました。入賞・入選された自画像作品は、自分の顔を写生するだけではなく、特徴をとらえ色鮮やかに描かれており、絵のセンスのない自分にとってはどの作品も素晴らしいと感じました。（田村）

今月の表紙

7段のひな人形の前で、はにかみながらおしとやかにポーズを取ってくれているのは、高宮町在住の菊野花音ちゃん、菊野花怜ちゃん双子姉妹。家族の方の温かい愛情に包まれてすくすく成長しています。特にお父さんの娘さんに対する想いが伝わってくる撮影でした。そんなお父さんの姿を見てイメージしたのが写真に添えてあるキャッチコピーです。娘を持つお父さんに共感していただければ幸いです。

Akitakata

人輝くまちの情報誌「広報あきたかた」 NO.145
3
2016.Mar

発行編集 安芸高田市 政策企画課 〒731-0592 広島県安芸高田市吉田町吉田791 Tel.(0826)42-5612 Fax.(0826)42-4376 http://www.akitakata.jp/



パパ、早く片付けないでね
ずっと傍にいたいから...

—娘たちより—